

# 文化財の保護・活用について

## 重要文化的景観について

### 1. 事業の目的・概要

既に重要文化的景観の選定を受けた天橋立及び府中、文珠地区については、文化的景観の本質的価値を損なうことがないように、重要構成要素の修景整備事業を進める。また、今後追加選定を予定する宮津地区については、保存計画策定のための調査検討を進めるとともに、まちあるきやフォーラムなど機運醸成のための普及啓発事業や地元説明会を開催し、早期の選定申出に向けて、地域住民の合意形成に向けた動きを進めていく。

### 2. 経緯

- 平成 22 年度 国の補助を得て、文化的景観選定に向けた取り組みを開始
- 平成 26 年度 天橋立・府中地区が「宮津天橋立の文化的景観」として国の選定を受ける  
「重要な構成要素」となった建造物等の修景整備事業を開始（1件 一宮棧橋）
- 平成 27 年度 文珠地区が追加選定を受ける  
「重要な構成要素」の修景整備事業（2件 慈光寺Ⅰ期・文珠公会堂）
- 平成 28 年度 「重要な構成要素」の修景整備事業（3件 慈光寺Ⅱ期・傘松ケープほか）

### 3. 29 年度の主な取り組み

#### ■普及啓発・調査事業の実施

宮津地区の追加選定に向けて、市民の機運醸成のための普及啓発活動や、計画策定のための調査事業を実施。各事業実施にあたっては有識者による検討委員会を組織し指導・助言を得る。

- 普及啓発活動 以下の事業を開催 ほか  
  - ブラミヤツ（まちあるき企画 10月の各土曜日 4回）
  - 景観まちづくりシンポジウム（10月28日（土））
- 宮津地区の保存管理計画の調査検討  
追加選定に向けて、重要な構成要素の特定や景観形成基準の策定作業を進める
- 整備事業に係る基礎調査等の実施  
「溝尻舟屋」などについて、修計整備の指針となるよう建物履歴調査等基礎調査を実施する。

#### ■重要な構成要素部物件の修景事業補助

29年度より文化庁補助事業のスキーム変更に伴い、所有者等が実施する重要構成要素建造物の修景事業に対し、市が事業費の一部を補助する。

- 対象事業費 工事費、設計管理費
- 補助率等 対象事業費の1/2 上限10,000千円
- 29年度 3件（真名井神社整備・神風楼整備・掬水荘設計）

### 3. 30 年度以降の方向性

- 文珠・府中地区：重要構成要素の修景整備助成進め、地域の良い景観創出を推進
- 宮津地区：早期の選定に向け、保存計画策定や地区合意形成の作業を進める。

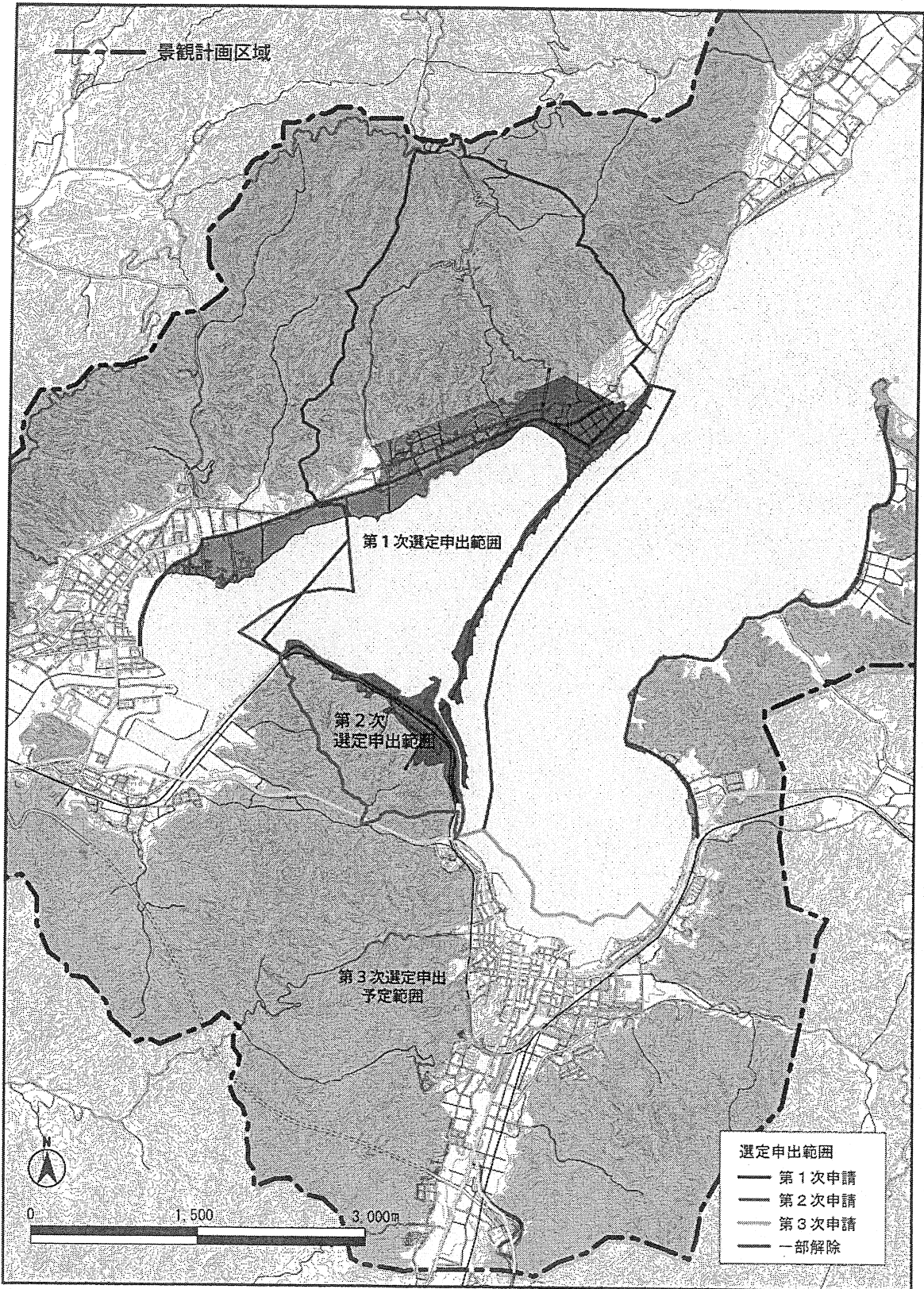


図2 文化的景観の位置と申出範囲

宮津のナゾ、解明まち歩き。

お問い合わせ ☎ 0772-45-1669

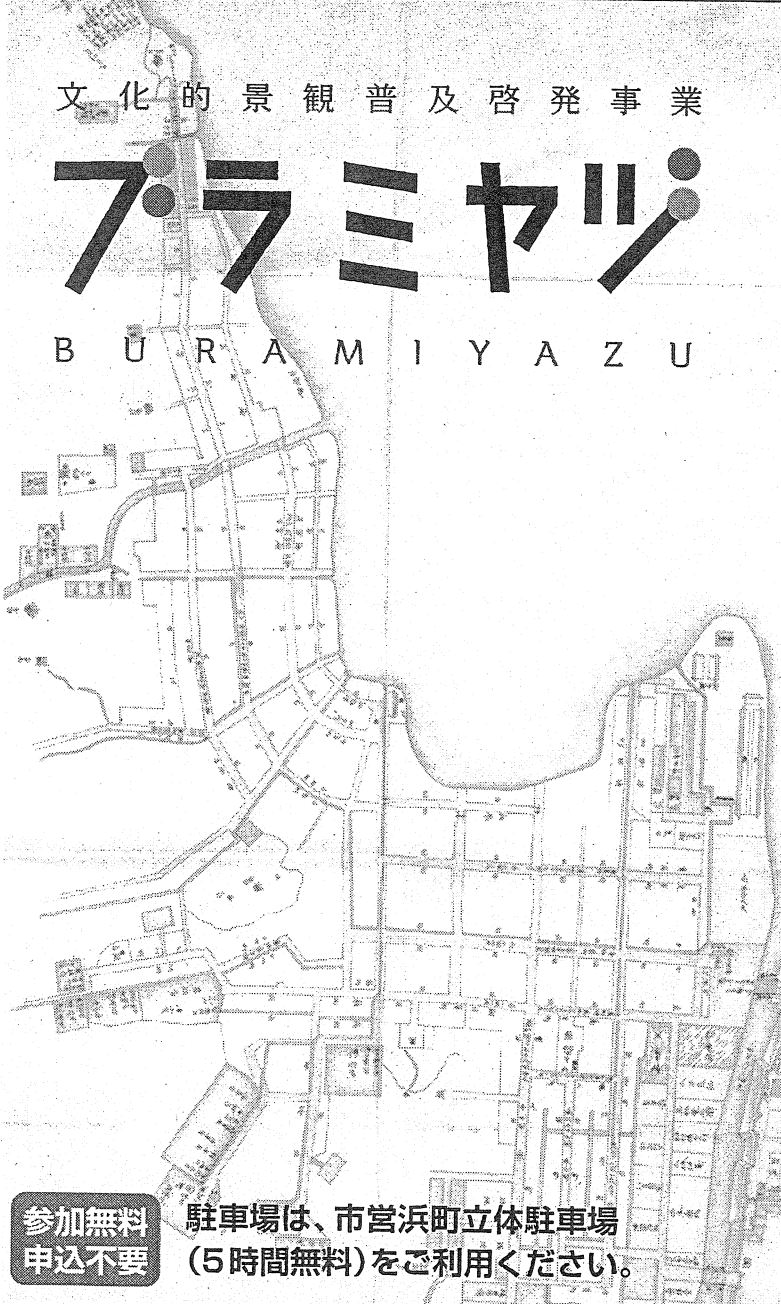
10月 毎週土曜日 開催 7日 14日 21日 28日

宮津市教育委員会 社会教育課文化振興係

文化的景観普及啓発事業

# プラミヤツ

B U R A M I Y A Z U



宮津のお城は無くなったけれど・・・

路地や水路の片隅に、江戸時代の都市計画は刻まれていて、軒を連ねる時代時代の建物は、紡がれ続けているまちの記憶を物語っています。

全4回シリーズのプラミヤツでは、江戸時代の絵図や古写真を手にまちを歩き、現在の町並みに秘められたナゾを紐解いていきます。

案内人  
**河森一浩**  
宮津市教育委員会



参加無料  
申込不要

駐車場は、市宮浜町立体駐車場  
(5時間無料)をご利用ください。

## #1 大手川界限 武家町から近代宮津へ

日時 10月7日 10時から12時 (受付9時30開始)

集合場所 大手川ふれあい広場

講師 笠原一人氏

京都工芸繊維大学助教

カトリック教会や独創的な市庁舎。武家町に生まれた近代化の息吹をたどります。

## #2 宮津城下西部 路地裏 水音めぐり

【共催】宮津西部地区公民館 宮津西部地区自治連合協議会

日時 10月14日 10時から12時 (受付9時30開始)

集合場所 涌上児童公園

コラボ シリーズ歴旅6

宮津西部地区公民館事業

涌上、池ノ谷、小川町、金屋谷に西堀川。水音に耳をすませると、水源を活かしたまちづくりが見えてきました。

## #3 鶴賀界限 ぶらり丹後 宮津城

【共催】京都府立丹後郷土資料館

日時 10月21日 13時30分から16時 (受付13時開始)

集合場所 大手川ふれあい広場

講師 森島康雄氏

京都府立丹後郷土資料館

江戸時代から明治へ。鶴賀城との愛称で親しまれながらも、消えた宮津城の痕跡を、発掘調査の成果をもとにたどります。

## #4 新浜界限 港町に花開いた風情

講師 松田法子氏

京都府立大学講師

【共催】NPO 天橋作事組



波音と宮津節が鳴り響く。港町に花開いた風情が色濃く残る新浜に惹かれ、聞き取り調査や研究を続ける松田先生と一緒に歩きます。

日時 10月28日 10時から12時 (受付9時30開始)

集合場所 道の駅 海の京都 宮津

【主催】 宮津市 宮津市教育委員会 宮津市まち景観形成協議会

## 市内遺跡発掘調査について

### 1. 事業の目的・概要

宮津に残る優れた歴史遺産の保全活用を進めるため、市内の重要遺跡の範囲内容確認調査を継続して実施。地下に埋もれた遺跡の歴史的価値を明らかにし、保全活用のための基礎資料を作成し、今後の歴史文化を活かした地域のまちづくりにつなげていく。

### 2. 経緯

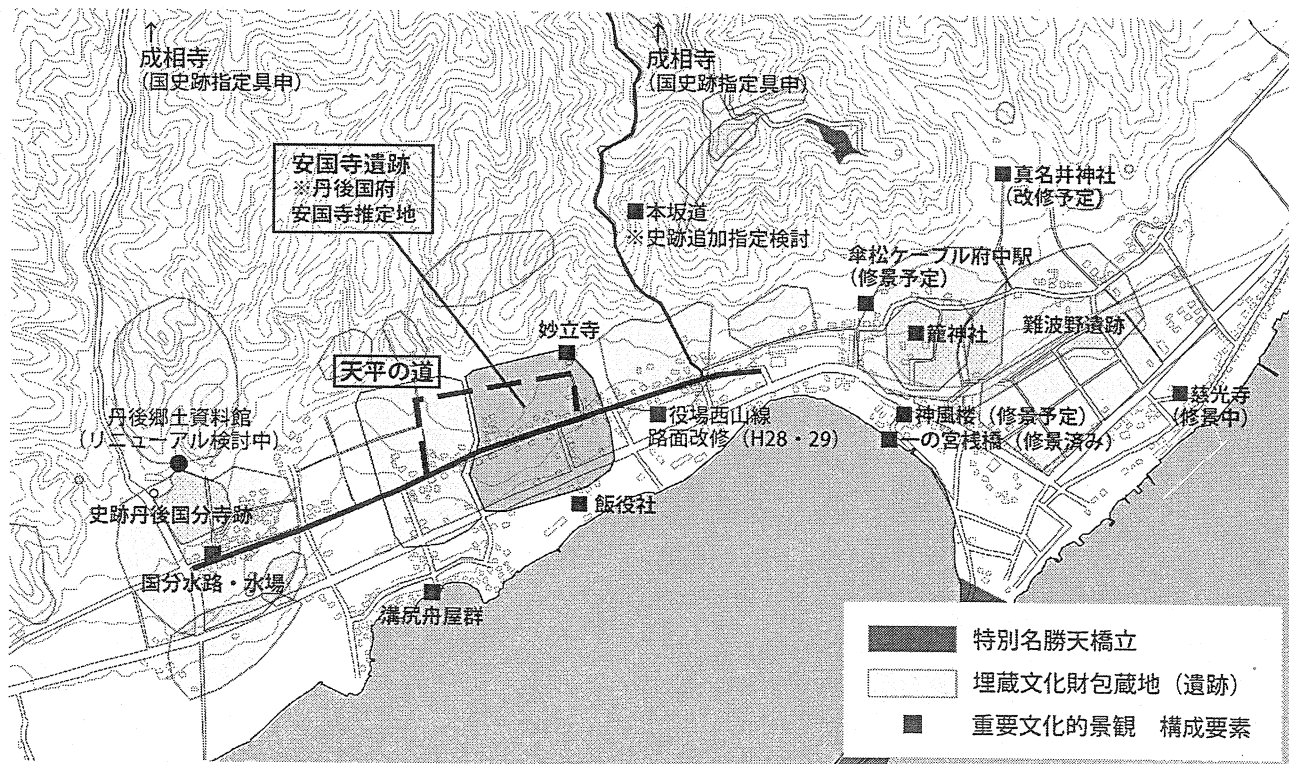
市内の重要遺跡の範囲確認内容調査を年次的計画をもって実施

- ・平成 14～18 年度 成相寺旧境内（古代～中世山岳寺院）
- ・平成 21～27 年度 難波野遺跡（弥生～中世集落）・成相寺旧境内  
→調査成果をもって成相寺旧境内が国指定史跡に（平成 28 年 10 月）
- ・平成 28～31 年度 安国寺遺跡（弥生～中世都市集落）

### 3. 29 年度の主な取り組み

府中地区の中心地にある安国寺遺跡は弥生～中世の複合遺跡で、古代の丹後国府、中世では雪舟筆「天橋立図」に描かれる「安国寺」の所在推定地である。古代～中世の「丹後府中」の繁栄を示す重要な遺跡であり、発掘調査を年次計画的に行い、地下に埋もれた遺跡の価値を明らかにする。

現地調査は 10～11 月の予定で実施中、調査終了後は、学校生徒や市民を対象とした現地見学会を開催し、調査成果の報告とともに市民の歴史意識の高揚につとめていきたい。



### 3. 30 年度以降の方向性

- 安国寺遺跡発掘調査（28～31 年度 4 か年計画）
- 成相寺旧境内をはじめ、市内の遺跡の保護と活用を推進していく。

4  
11  
28年度  
調査成果

## 丹後国府の遺構か？平安時代の建物跡を検出 ～安国寺遺跡発掘調査～

宮津市教育委員会では、市内の重要遺跡のひとつである「安国寺遺跡」(字小松・中野)の発掘調査を、今年度から4ヵ年計画で実施することとしています。

今年度は10～12月の間に調査を実施。小規模な発掘調査ですが、平安時代頃の建物の跡と思われる大きな柱穴や、瓦や輸入陶磁器など、一般の集落ではみられない遺物も多数出土しました。

安国寺遺跡がある府中地区は、奈良～平安時代に丹後国の「国府」(政庁)が置かれた地域と推定されていますが、今回見つかった遺構や遺物から、丹後国府に係る役所的な建物がこの地に建っていた可能性が想定されます。

本遺跡の名が記すとおり、雪舟筆「天橋立図」にも描かれている中世寺院「安国寺」の存在も想定されますが、残年ながら今年度の調査見つけることはできませんでした。これについては来年以降の調査の課題になります。

調査成果の公表の場として、12月16日(金)に、養老・日置・府中小学校の5・6年生、17日(土)に一般市民を対象とした現地説明会を開催、調査担当者の解説を聞きながら、出土した土器を手にとり触ったりと、1200年前の古代丹後の歴史に思いを馳せていただきました。



発掘調査現地説明会 (10/17)



出土遺物を手にとって (10/17)

平成28年12月17日(土)

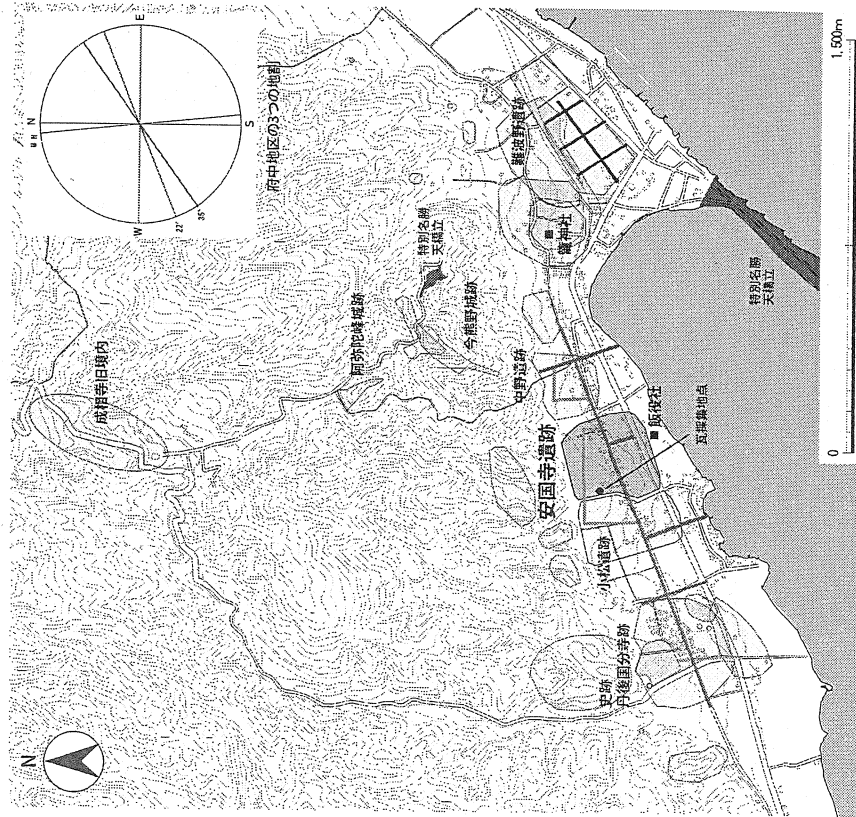
## 安国寺遺跡発掘調査 現地説明会

調査期間：10月24日から12月22日(予定)

調査主体：宮津市教育委員会

宮津市・府中地区には、国史跡・丹後国分寺跡、成相寺旧境内をはじめ多くの古代遺跡が点在し、丹後国一宮の籠神社や、平安時代に遡るとされる飯役(印輪)社が所在することから、古代丹後国の中心地と目されています。

宮津市教育委員会では、平成28年度から安国寺遺跡において範囲内容確認調査を実施し、遺跡の範囲や内容を明らかにすることで、将来の遺跡の保存と活用に生かしていきたいと考えています。



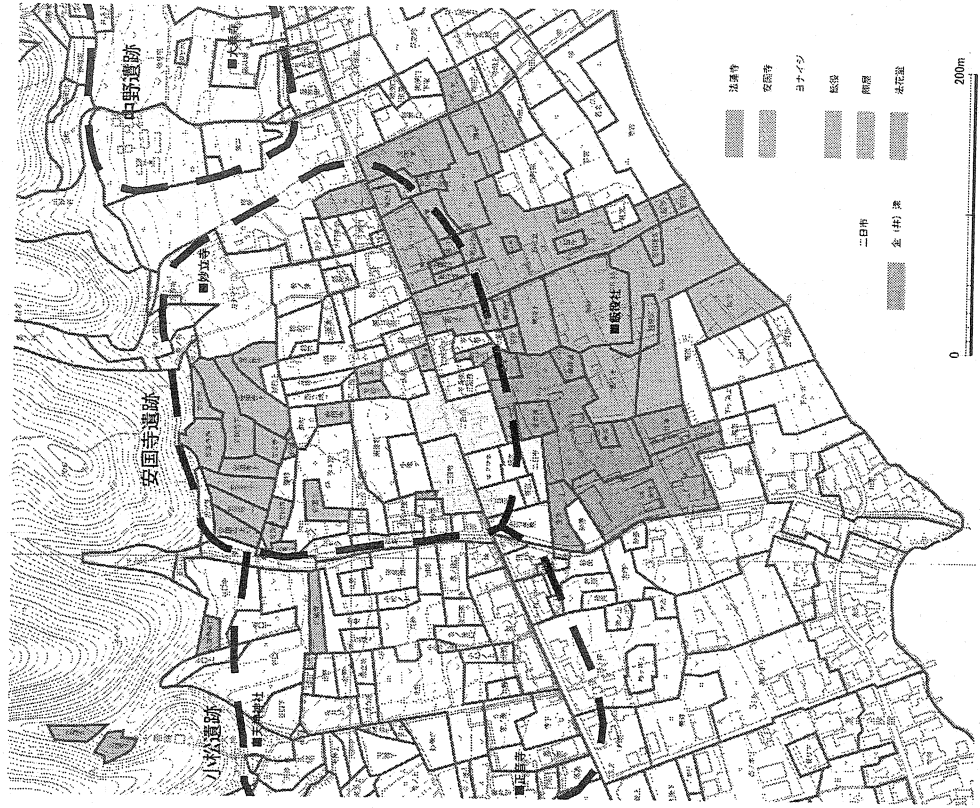
遺跡の位置と調査範囲

### (1) 安国寺遺跡はなぜ重要なのか？

安国寺遺跡は、府中地区のほぼ中央部に位置し、小松川によって形成された扇状地の高台に立地します。

安国寺遺跡周辺の地名をみると、寺の名前である「安国寺」「法蓮寺」「ヨナイジ」「法花堂」や、飯役社に関連する「飯役」、市場や港に関連する「二日市」「金(井)津」など、歴史的な地名がみられます。このうち「安国寺」は、雪舟「天橋立図」(国宝)に描かれた「十刹安国寺」に、「法蓮寺」は「諸山寶林寺」に関連すると考えられます。また、妙立寺に所蔵される厨子(国重要文化財)の墨書を見ると、文安3年(1446)に与内寺を改宗して妙立寺を創建したとあり、「ヨナイジ」という地名が注目されます。

安国寺遺跡の発掘調査では、こうした中世寺院の遺跡を確認することが目的の一つとなります。



安国寺遺跡周辺の地名と社寺

さらに、府中地区の道路や水田の形をみると、時期の異なる3つの地割を確認することができます。このうち、旧道に沿って真北から22°西にずれた地割は、府中地区で発掘された平安時代後期（約800年前）の建物と方位と一致することから、少なくとも平安時代後期まで遡る可能性がります。さらに、安国寺遺跡や中野遺跡の周辺には、ほぼ真北を向く方形の地割がみられます。丹後国分寺跡で発掘された奈良時代（約1300年前）の溝、土塁と方位が一致することから、奈良時代まで遡る地割として注目されます。

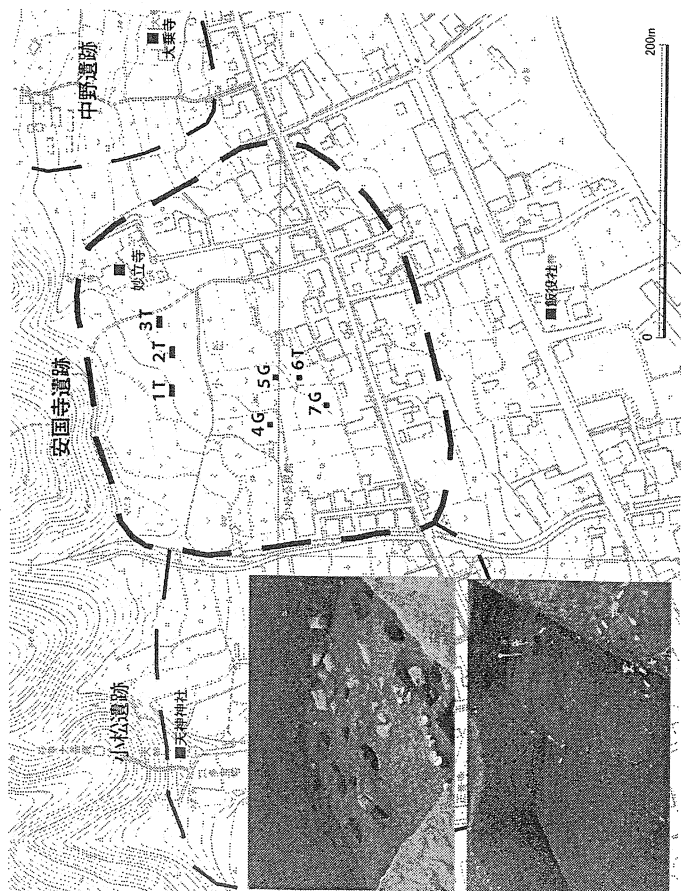
府中地区には、丹後国分寺跡や一宮の籠神社、飯役社などが点在し、古代丹後国の中心地と考えられています。国の政治的な中心となる「国府」の位置は発掘調査によって確認されず、丹後の古代史を考える上で、大きな謎となっていますが、こうした奈良時代に遡る地割は、国府など古代官衙の位置を推測する上で重要です。

安国寺遺跡の発掘調査では、国府など古代の官衙遺跡の確認が目的の一つとなります。

## (2) 本年度の調査成果

本年度は、7ヶ所の調査区を設定して発掘調査を行いました。

府中地区は、古代の丹後国府の有力な候補地とされてきましたが、発掘調査によって、その位置は未確認で、その所在地は不明とされてきました。今回の調査では、古代官衙に関連すると考えられる平安時代を中心とする遺構や、中国産の陶磁器や灰釉陶器、瓦などが出土し、古代の丹後国府の解明に向けて重要な手がかりを得ることができました。



安国寺遺跡の調査区と成果

## ① 第6トレンチ

直径80cmから1mを測る円形または隅丸方形の土坑（穴）が複数検出されました。その規模や形から、国府など古代官衙に関連する建物の柱礎である可能性がります。

土師器、須恵器のほか、一般的な集落ではみられない中国産の陶磁器や灰釉陶器、瓦などが多く出土し、官衙的な性格がうかがえます。平安時代前期から後期に位置づけられ、奈良時代に遡る可能性もあります。

## ② 第4グリット

平安時代後期から鎌倉時代に位置づけられる土坑が検出され、当該期の遺構が遺跡の北半部にも広がることを確認しました。第6トレンチと同様に、中国産の陶磁器や灰釉陶器が出土し、官衙的な性格がうかがえます。

調査区の南半分は、小松川の氾濫で埋まっていますが、調査区に北側の土坑の上面からは、平安時代の土器が、置かれた時の状態で出土しました。

## (3) 今後の課題

古代の国府は、国庁や、倉、館、工房など、様々な施設から構成されることが明らかになります。特に、中心となる国庁は北側に正殿、左右両側に脇殿が「コ」字形に配置されると考えられています。本年度の発掘調査は、小規模なトレンチ、グリットによる試掘調査のため、今後、検出された柱礎の配置などを面的に把握して、建物の性格を明らかにする必要があると見られます。

また、本年度の調査では、安国寺など中世寺院に関連する遺構を検出することはできず、こうした遺跡の範囲の把握も今後の課題です。

## ◆コラム◆ 色々な古代の焼き物

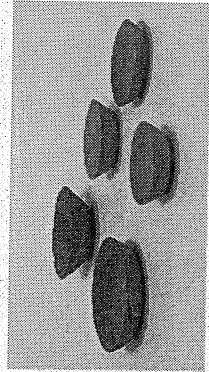
遺跡から出土する焼き物は、時代によって形や作り方が異なり、遺跡の年代を知る基準となります。

**土師器** 弥生土器の系譜をひく。酸化焰焼成によるため、軟質で赤色。平安時代には表面に炭素を吸着させた黒色土器が作られます。

**須恵器** 古墳時代に朝鮮半島の影響をうけて出現。窯の中で還元焰焼成するため、硬質で青灰色となります。

**貿易陶磁器** 平安時代になると、中国で生産された白磁、青磁が丹後で出土します。

**灰釉陶器・緑釉陶器** 平安時代になると、尾張や近江、長門、京都洛北などで、釉をかけた陶器が生産されます。



奈良時代の土師器、須恵器（成相寺旧境内）



奈良時代の貿易陶磁器（中野遺跡）